

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間 : 令和2年7月 ~ 令和3年6月

発行年月日 : 令和3年 8月31日



株式会社いらい

目 次

1. 挨拶	P 1
2. 環境方針	P 1
3. 事業概要、認証登録範囲	P 2
4. 実施体制	P 3
5. 環境目標	P 4
6. 環境目標の実績	P 5～7
7. 環境活動計画	P 8
8. 次年度以降の取組内容	P 9
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価並びに違反、訴訟等の有無	P 9
10. 代表者による全体評価と見直し結果	P 10

1. 挨拶

この度は、株式会社いわいの環境活動レポートをご覧頂き誠にありがとうございます。
企業は社会貢献を一つの目的とし、健全で持続的な成長をすることが重要な使命です。
弊社は、自然や社会の恩恵を受けながら、社会の信頼と期待に応える為活動しています。
社会に受け入れられ、尊敬されなければ、企業として継続していくことは不可能です。
地球上で生活する一市民として、お客様と共に価値を創造し、持続可能な社会を目指していきたくと考えています。

私は、弊社にできる社会貢献とは何かを考え、社員が誇りを持ち働ける企業として、
エコアクション21に社員と共に取り組み、社会的責任を果たしていきます。

2. 環境経営方針

《環境理念》

株式会社いわいは磐井川のほとりにあり、明治39年の創業から建設業に係る企業経営に取り組んできました。

当社はこの地域の美しい自然環境を将来世代に引き継いでいくため、土木工事を通し、地域の環境保全に寄与することが重要であると認識しています。

そのため土木工事に係る事業活動に際し、「確かな技術」「地域社会への貢献」「誠実な経営」「価値の創造」をもって、お客様に満足していただける製品の提供と環境マネジメントシステムの継続的改善に努め、社会の一員として信頼の向上を図ることを誓約します。

《環境保全への行動指針》

1. 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組み、建設現場においては、環境に配慮した機械の使用に取り組みます。
 - *低騒音・低振動施工の促進
 - *汚水流出の防止
2. 現場・事務所にて排出される廃棄物は分別・減量し、資源のリサイクルに努めます。
3. 水資源の使用量削減に努めます。
4. 事業活動での物品・事務用品など、グリーン製品購入に努めます。
5. 地域活動、環境保全活動への参加、地域との環境コミュニケーションに努めます。
6. 事業活動に関連する法規制は、確実に遵守することを誓約します。

《経営における課題とチャンス》

1. 担い手育成の強化…高齢化社会のなかで、若手の人材確保。（課題）
2. 働き方改革の推進…生産性が向上顧客満足度の向上。（チャンス）
3. 女子力の活用…男女平等のもと、お客様にも信頼され地域貢献活動に役立てる。（チャンス）

制定日：平成23年5月31日

改訂日：令和 2年5月25日 （第2版）



株式会社いわい
代表取締役 赤間 仁

3. 事業概要、認証登録範囲

1. 名称及び代表者名

株式会社いわい

代表取締役 赤間 仁

2. 所在地

本 社 岩手県一関市旭町1番6号

TEL : 0191-23-5180

FAX : 0191-21-0915

倉 庫 岩手県一関市中里沢田269-1

3. 環境管理責任者連絡先

環境管理責任者 及川 千恵

担当者 前田 恭子

連絡先 TEL・FAX 本社所在地と同じ

E-mail iwai@iwai-net.co.jp

4. 事業内容

土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、管工事業、舗装工事業

5. 許可番号

特定建設業 岩手県知事 許可（特-29）第925号

6. 事業規模

資本金 3,000万円

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	H28.7.1～ H29.6.30	H29.7.1～ H30.6.30	H30.7.1～ R1.6.30	R1.7.1～ R2.6.30	R2.7.1～ R3.6.30
完成工事高(百万円)	578	475	479	886	1,015
受注件数(件)	12	12	12	10	10
従業員数(人)	19	19	20	19	18
本社延床面積	670㎡	670㎡	670㎡	670㎡	670㎡

7. 認証登録範囲

全社・全組織・全事業活動が認証登録範囲

8. 事業経歴・営業範囲

事業経歴

明治39年 創業（小野政建設株式会社）

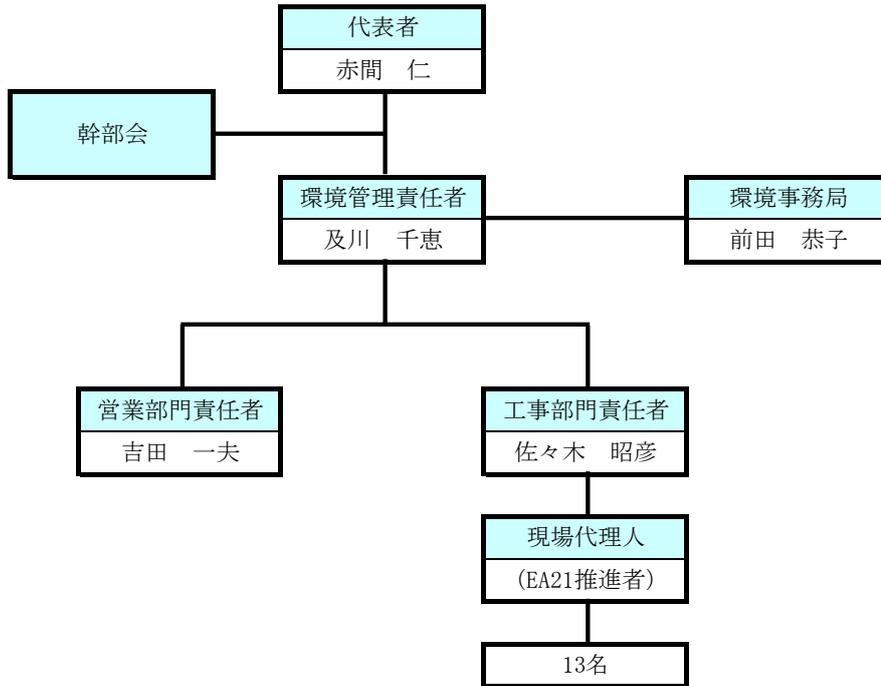
平成10年 株式会社いわい に社名変更

営業範囲

主に岩手県内陸南部

4. 実施体制

1. 組織



2. 役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	赤間 仁	<ul style="list-style-type: none"> 有効な実施体制を構築する。 環境経営に関する取り組みの統括責任を担う。 環境経営システムの実施に必要な人員、費用、時間、技能を準備する。 システム全体の評価、見直しを行う。 経営の課題とチャンスの明確化。 環境経営方針の策定、従業員への周知。
幹部会	代表者 常務 工事部長 環境管理責任者 工事部課長 営業部課長	<ul style="list-style-type: none"> 代表者を委員会の委員長とする。 環境管理責任者からの提案を審議し、決定する。
環境管理責任者	及川 千恵	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理システムの構築、実施の指揮、管理をする。 幹部会を招集し、取り組みの提案及び結果の報告をする。
環境事務局	前田 恭子	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐する。 取り組みデータの集計・取りまとめ、文書記録類の管理をする。
部門責任者	営業部 吉田 一夫 工事部 佐々木 昭彦	<ul style="list-style-type: none"> 各部門において環境管理システムを実施・維持する。 省資源、省エネ、節水等を奨励・実施・確認・是正する。 従業員に対し教育訓練を実施する。
現場代理人 (EA21推進者)	—	<ul style="list-style-type: none"> 現場の施工管理、安全管理、工程管理、労務管理 新規入場者教育、施工体制、作業員への環境配慮事項の周知、緊急事態の想定及び訓練。
全社員		<ul style="list-style-type: none"> 環境方針や環境への取り組みの重要性を理解し、能力向上に努める。 決定事項を遵守し、積極的に環境活動へ参加する。

5. 環境経営目標

環境目標設定について

当社では平成29年度～令和元年度の実績平均値を基準として、中期の環境目標を、それぞれ表1のとおり設定し、事務所と現場で分けて環境活動に取り組んでおります。

しかし、自動車の燃料に関しては、現場監督員が現場が無く本社事務所にて仕事をする等不規則な事例もあるので、目標として一概に定められない場合もあります。

※令和2年7月1日に中期目標を改定しましたが、項目を再検討し今年度以降実情に合わせた目標を再設定しました。

表1 環境目標 基準年度(平成29年度～令和元年度実績平均値)比の削減(増加)率(%)

項目		H29～R1年度 実績平均値	中期目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素 排出量 (電力)	事務所 (kgCO2)	4,416	4,372 (1%減)	4,372 (1%減)	4,372 (1%減)
	現場 (kgCO2)	4,131	4,090	4,090	4,090
二酸化炭素 排出量 (燃料)	事務所 (kgCO2)	10,340	10,237 (1%減)	10,237 (1%減)	10,237 (1%減)
	現場 (kgCO2)	15,744	15,587	15,587	15,587
総排水量 (m ³)	生活用水が主体 (40L/日・人) で節水強化にてデータ管理とする				
グリーン購入 (品)	60	60	60	60	60
資格取得 (人)	2	2	2	2	2
地域貢献活動 (件・回)	6	6	6	6	6
環境に配慮した機械の使用 (%)	100	100	100	100	100
建設リサイクル (%)	100	100	100	100	100

電力使用については東北電力CO2調整係数0.528で換算

6. 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

令和2年度（令和2年7月1日～令和3年6月30日まで）の実績を報告します。

表2 当該年度の環境目標の達成状況

項目	部門	単位	基準年実績値	R2年7月～R3年6月			環境目標の達成状況
				削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
電力の二酸化炭素	事務所	kg-CO ₂ /年	4,416	1%減	4,372	3,492	達成(20%減)
	現場	kg-CO ₂ /現場数	4,131	1%減	4,090	4,184	未達成(2%増)
燃料の二酸化炭素	事務所	kg-CO ₂ /年	10,340	1%減	10,237	9,194	達成(10%減)
	現場	kg-CO ₂ /年	15,744	1%減	15,587	25,609	未達成(64%増)
二酸化炭素合計	事務所	kg-CO ₂ /年	14,756	1%減	14,608	12,685	達成(13%減)
	現場	kg-CO ₂ /年	19,875	1%減	19,676	29,793	未達成(51%減)
	全社	kg-CO ₂ /年	34,631	1%減	34,285	42,478	未達成(24%増)
グリーン購入	営業部	品	60	—	60	65	達成
資格取得	営業部	人	2	—	2.0	1.0	未達成
地域活動	営業部	件・回	6	—	6	7	達成
環境に配慮した機械の使用	工事部	%	100	—	100	100	達成
建設リサイクル率	工事部	%	100	—	100	100	達成

電力使用については東北電力CO2実排出係数0.528で換算

環境活動の状況



クリーンロード作戦(本社前道路のゴミ拾い)



工業高校体験学習の様子



計量器等でコピー用紙の排出量を管理



廃棄物の分別管理

環境目標達成状況の評価と考察

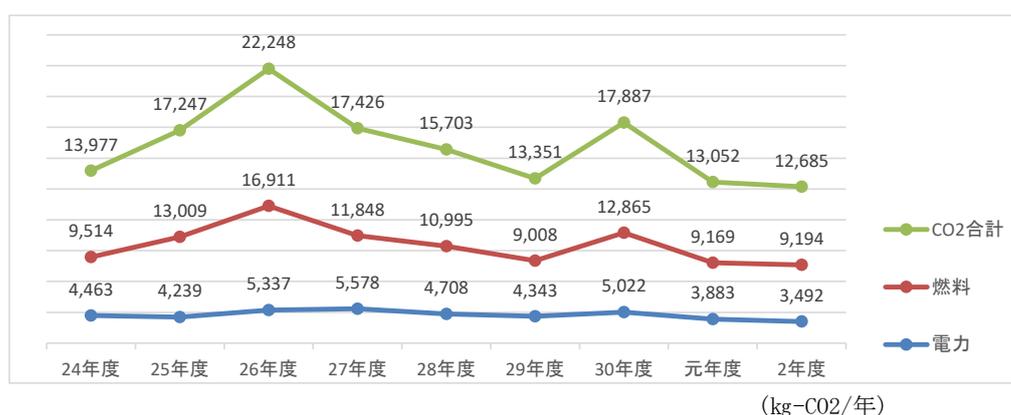
環境目標（12ヶ月間）の評価

《事務所》

○二酸化炭素排出量の削減

今年度、電力については目標値に対して20%減、燃料については10%減の結果となった。今期は工事部のフロアに社員がおらず、夏場にエアコン1台のみの稼働だったことが達成につながった。燃料についても、本社勤務の工事部員がいなかったことと、4月で営業の社員が退職したことにより燃料消費を抑えられた。節電や、エコドライブ等の意識は個々に根付いてきたので継続して取り組みたい。

二酸化炭素排出量の推移(H24～R02)《事務所》



《会社全体として》

グリーン製品の購入は定着。種類も豊富なので、躊躇なく選べる環境が良い。継続して取り組んでいく。

資格取得に関しては、今年度は1級土木施工管理技士に1名が合格。基幹技能者を受験予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり今年度は断念。来年度は目標2名の資格試験の合格を期待する。

地域活動（ボランティア・地域清掃等）については、目標を上回っての活動ができた。地域の清掃や草刈、高校生のインターンシップ受入等、出来ることから協力して地域貢献を継続していきたい。

《現場》

○二酸化炭素排出量の削減

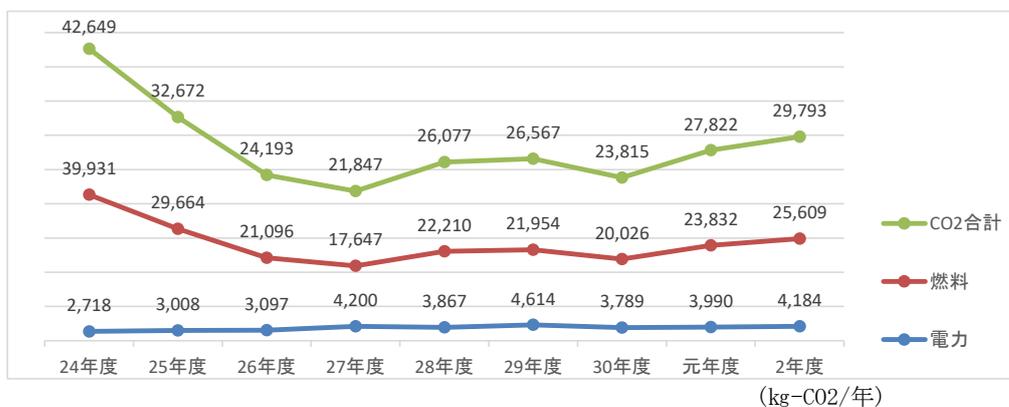
今年度は、前年度同様繰越工事が多く、目標設定時にはない環境での取り組みとなった。毎月の状況を幹部会議及び社員会議にて報告し、削減に引き続き取組みように周知した。年々酷暑となり、電力使用量は削減が厳しい状況になりつつあるが、現場事務所を不在にする時の節電など、出来ることから取り組んでいる。

次年度も繰り越し工事がある為、目標値との差が生じると思うが、最小限にしたい。

電力・燃料の使用ともに目標達成とはならなかった。通年で現場が稼働であった事や、通勤距離が長い人も居たのでこの結果となった。

引き続きエコドライブを意識しながら運転するように、会議等で周知したい。

二酸化炭素排出量の推移 (H24～R02) 《現場》



環境に配慮した機械の使用は、各現場で達成できている。

当社は、自社施工ではなく下請業者の協力を得て現場完成をするので、今後もエコアクションの周知と取組に際しての協力を頂き進めて行く。

建設リサイクル率も適正に処理しているので継続して取り組んでいく。

7. 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素・廃棄物・水使用量を削減し環境目標を達成するため、従業員が一人となり省エネルギーや廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでいます。取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

	取組内容	評価	備考
照明・節電	①昼休みなど、部屋を使用していない時や席を3分以上離れる時は照明消灯を確実に実行する。	○	
	②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等使用時のみの点灯。	○	
	③本社事務所の部分照明を実行する。	○	
	④パソコンの電源は切る。	○	
	⑤退社時は、OA機器の待機電源は切る。	○	
	⑥残業の時は、必要な箇所のみ点灯し、業務に必要なない箇所は消灯する。	○	
冷暖房	①冷暖房の温度（冷房26℃、暖房20℃）にする。	○	
	②空調を必要な区域・時間帯に限定する。	○	
	③ドアの開け放しはしない。	○	
車両	①急発進・急加速はしない。	○	
	②冷暖房の控えめ使用	○	
	③タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する。	○	
	④エコドライブ講習の受講	△	
一般廃棄物	①使用済み用紙（片面コピー）の裏面を利用する。	○	
	②使用済みコピー用紙、段ボール、雑誌、新聞紙等は、所定の場所に分別保管する。	○	
	③古紙リサイクルを徹底する。（地域廃品回収）	○	
	④オフィス用紙には、できるだけ再生紙を購入し、使用する	○	
	⑤コピー機のトナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する。	○	
産業廃棄物	①分別を徹底し有価物化する。	○	
	②一般ゴミが混載しないよう定期的にチェックする。	○	
	③産業廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を行う。	○	
水資源使用量	①水道水を出しすぎない。	○	
	②節水の表示を行う	○	
グリーン購入	①再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している。	○	
	②コピー用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレトペーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図っている。	○	
社員教育	①一人一人が省資源、省エネ、節水等への取り組みの重要性を認識させる教育を行う。	○	
地域活動	①地域のボランティア活動等に積極的に参加し、協力や支援を行っている	○	
施設・設備	①騒音、振動等を発生させないよう作業方法、時間帯等に配慮する。	○	
	②悪臭が発生する恐れがある作業を行う場合は、作業方法等に配慮する。	○	
	③土砂が仮置場等から河川や水路などに流出しないよう配慮する。	○	
建設機械	①現場施工に使用する機械は、低騒音・排出ガス対策型建設機械を用いる。	○	
建設リサイクル	①建設現場より発生する建設リサイクル材は、全て適正に処理する。	○	

8. 次年度以降の取組内容

次年度以降の取組内容

項 目		取 組 内 容
二酸化炭素 排出量	電力	夏季に週休2日制を設けるなど、勤務形態も含めた検討。
		環境に配慮した設備等の導入。
	ガソリン	エコドライブ講習の受講による、意識向上。
	灯油・LPG等	設定温度等の意識啓発につながる表示の工夫。
燃費	ガソリンの使用削減の取り組み内容に準ずる。買い替えはエコカーを検討。	
再資源化率の向上	適正な処理、分別によりリサイクル率100%を維持する。	
水使用量	節水意識の持続。水道設備の点検。	
資格取得	資格取得に向け、講習会が開催されるものは受講しサポートする。	
地域貢献活動	要請があったものについては必ず、そしてパトロール等は基準値とデータとの比較を確実にし、判断を的確にする。	
環境への苦情	地域住民の方々をはじめ、トラブルのないように施工する。	
顧客満足度 (品質の確保)	ISO9001にて品質の確保を対応。	

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律（建設リサイクル法）等の関連法規について、遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。また、関係当局からの指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体評価

社長よりコメント

エコアクション21の認証を受けてからもうすぐ10年を迎えます。取組の継続で近年では大きな二酸化炭素の排出削減は出来なくなってきているが、継続して取組むことが地域や社会へと貢献できると思うので、この先も社員一丸となり認証継続に向けて尽力します。

今年度の削減結果より課題となる点がいくつか確認できたので、今後の活動に活かせるよう対策を講じたい。

その年の状況に応じて、可能な限り二酸化炭素排出量を削減していけるよう、一事業所としてエコアクション21を推進していきたいと考えている。

項目	評価	改善及び指示
環境方針	環境方針に基づいた活動を実施、方針の維持を確認。	<p>エコアクション21取組開始時より、環境方針は大きく変更していない。</p> <p>課題であった人材確保について2021年4月より1名ではありますが数年ぶりの新卒採用にて若手の人材を確保出来ました。若いパワーを受けつつ育てていきたいと思う。</p>
環境活動の実績	<p>年間を通し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二酸化炭素排出量の削減への取り組み ○騒音・汚水流出等の苦情なし ○グリーン対象商品購入増 ○環境活動への参加(ボランティア活動・本社周辺の清掃活動等) <p>確認でき、良好であると評価する。</p>	<p>本社における電力・燃料の二酸化炭素の排出については目標達成となった。</p> <p>現場については目標達成とはならなかった。原因として通勤距離が長くなり、夏と冬の気温の変化や、燃料の使用量が増えた為と思われる。</p> <p>資格取得については、引続き会社としてサポートしていく。</p>
実施体制	社内での組織体制が維持できている。	会社としての取組、各人としての取組にて継続。